



西新井 消防団だより

発行 令和5年 No.9 0 web

編集・発行

西新井消防団 広報委員会

はじめに

「昭和・平成の記憶をお貸しください」とのタイトルで読者の皆さんに問いかけたところ、貴重なお話を何件か聞くことが出来ました。その貴重なお話を不定期ではありますが、「消防団よもやま話」として掲載する事となりました。第一回目は募集時の写真を提供していただいた、第六分団の元分団長嶋村秀雄氏への聞き取りです。

本文中には、現在の規則に合わない内容や、すぐわれない事項が含まれていますが、当時の事実を少しでも正確に伝え残すために、口語表現等も含め、修正を加えず掲載しました。

なつか史

消防団よもやま話

第1回

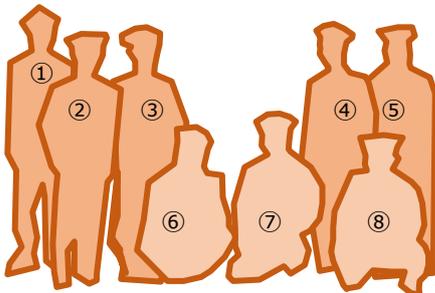
私は消防団へ昭和31年夏に入団しました。*1

下村重助さんの退団に伴う補充でした。分家の嶋村銀蔵さんの推薦と入団の勧めもありました。所属は第十一分団の第2部でした。所轄地域は伊興全域だったと思います。(写真を見ながら) この写真*2 は現在のはやぶさ学童保育のある横山由太郎さんの敷地(伊興4-6-8)が空き地だったのですが、そこで撮ったものだと思います。



昭和30年代の第十一分団第2部*3 (現在の第六分団第1班)の消防団員

*1 正式な入団は昭和31年8月28日



*2 写真に写っている団員は、左後ろから、
①杉本昇団員 ②横山忠光班長 ③小川清吉部長
④古性勇二郎団員 ⑤田中平三郎団員、
左手前から、⑥浅賀常男団員 ⑦古性定之助部長
⑧嶋村秀雄団員となる。

この写真の中でご健在なのは嶋村秀雄氏と古性定之助氏だけである。

(2023年1月現在。階級は撮影当時)



当時嶋村秀雄氏が付けていた、団員の階級章。

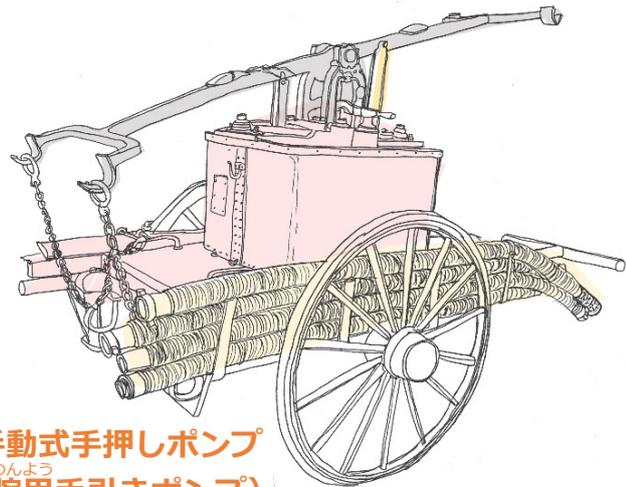
現在の金属製とは違い、布製。嶋村秀雄氏によると、

この階級章は二番目に支給されたもので、初めに支給されたものより出来は良かったとの事。

*3 現在の西新井消防署が開所する前で旧西新井消防署となる。当時の第十一分団は現在の五分団と六分団となる。その第十一分団は第1部から第4部までであった。第1部の消防小屋は現在の第五分団の小屋がある大門の所(伊興 2-18-21 近辺)第2部は現在の第六分団第1部の小屋の所(伊興 4-6-5)第3部は北根町会の横山千勝元副分団長宅敷地の東南角地(伊興 5-3-2)第4部は第五分団の藤波邸敷地の南西部分(伊興 5-11-5)にあった。1989年時点では第1部の小屋以外はすべて存在していた。

田中さんと杉本さんが入団した時に記念に撮ったものか、歳末防火訓練の時の記念かと思います。撮影は昭和31年の秋だったと思います。田中さんは嶋村銀蔵さんの退団に伴う補充で、杉本さんは小川正光さんの退団に伴う補充で入ったと思います。写っているメンバーは当時の第2部の団員です。真ん中に写っているのは第2部に配置されていた、**手動式の手押しポンプ**です。*4

このポンプは二代目のポンプとなります。一代目のポンプはもっと小さかった覚えがあります。



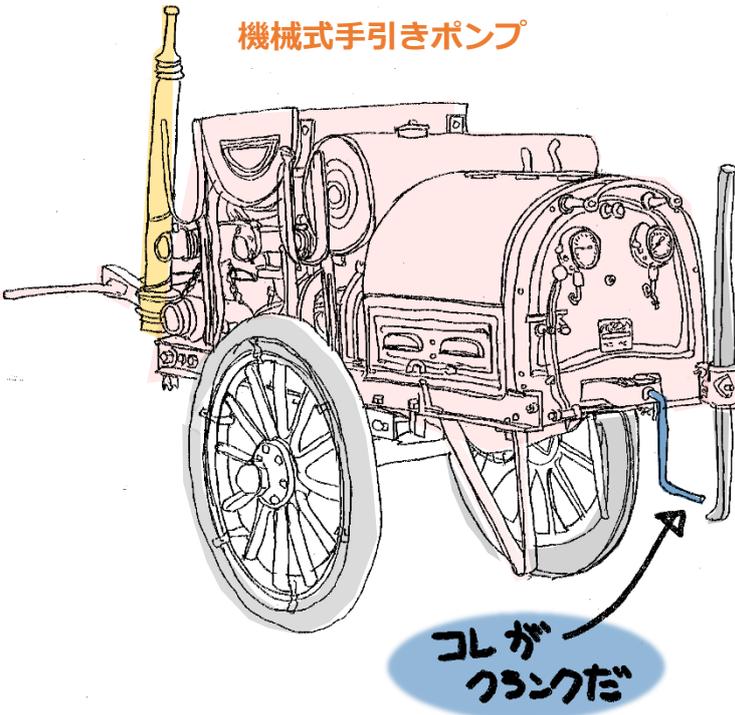
手動式手押しポンプ
わんよう
(腕用手引きポンプ)

*4 手動式手押しポンプ: 正式には「わんよう腕用手引きポンプ」。嶋村秀雄氏の話だと、水があまり飛ばなかったので火点の近くまで行く必要があったとの事。また、一代目のポンプは小型で運搬が楽だったとの事。

ケッチンを食らう

次に来たポンプはダットサンのエンジンを使った機械式ポンプでした。*5 このポンプが来てから、私は機関員となりました。これは私がオート三輪の免許を持っていたからだと思います。このダットサンのエンジンは、クランク*6を使って手動で始動させました。このクランクでの始動はとても難しく、良く「ケッチン」*7を食らいました。

機械式手引きポンプ



コシがクランクだ

私もこの「ケッチン」で怪我をして医者に行ったことがありました。その事で当時の藤波辰五郎団長と、西新井消防署*8に報告に行ったこともありました。

このダットサンのエンジン式は2部に配置された後、4部にも配置されたようでした。「ケッチン」が大変危険なので、今のポンプになったのだと私は思っていました。



おもしろい!
回す!

*5 嶋村秀雄氏に後日聞き取りをした際に、ダットサンと言っていたがエンジンに書いてあったかどうか覚えていないとの事だった。皆が「ダットサンのエンジン」と言っていたのでそう覚えていた様子だった。ダットサンのエンジンを積んだ手引きポンプの事に関係団体に問い合わせをしたが、その様な記録は無いとの事で、今もって不明の手引きポンプである。どなたか、ご存知の方がいたら広報委員会にお知らせ頂きたいものである。

*6 機械式手引きポンプのイラスト参照。当時配置されたポンプは中古だったとの事。また、イラストはエンジンカバーが付いているが、支給されたポンプはエンジンがむき出しだったとの事。

*7 「ケッチン」とは、エンジンを始動させる際にクランクロッドでエンジンをかける時に起きることがある現象。オートバイでキックスタートをさせる時に踏み込みが甘いとエンジンが逆回転してキックペダルが反対方向に跳ね上がる現象と同じである。ポンプのエンジンはキックペダルではなく、クランクシャフトなので回し方が甘いと回した方向とは逆に突然勢いよく回ってしまい、手をねじってしまう事を言う。

*8 当時の西新井消防署の所在地は現在の足立消防署になる。現在の西新井消防署は昭和51年3月1日に現在の位置に開所となる。

十四中の火災は一代目の手引きポンプを運び出動

ポンプを運んでの出動は、何回かあったのを覚えています。入ったばかりの頃に伊興藤塚*9 当たりの「足立邸」で火災が起きた時に、手引きポンプを押していった事もありました。当時はどこの火事場でも野次馬の人が良く手を貸してくれましたが、この時も「しのぶ湯」の旦那がおっぺす*10 のを手伝ってくれました。この出動で実際に水を出しませんでした。出動は「おりっと」*11 にも行きました。

この時は火災がやたらに多く、毎晩出動した事もありました。やがてそれは放火で、犯人は地元の人だったと聞かされました。近所の十四中の火災は一代目の手押しポンプを運び出場しました。確か夜の火災だったと思います。ダットサンのエンジンを積んだポンプの初出動は、近所のクリーニング屋(伊興 3-17-22 周辺で現在の補助 100 号線上)での火災の時でした。近所の佐藤文具店(伊興 3-18-13 付近)の火災*12 の時はダットサンのエンジンポンプより 2 代位後のポンプでしたが機械が動かなくて水が出せなかったと思います。西新井大師の火災は特に出動はしませんでした。要請も無かったと思います。私のおじいさんが焼けた櫛で皿を作ってもらった事くらいしか覚えていません。

*9 伊興藤塚：現在の西新井 4 丁目のあたり。

*10 「おっぺす」とは、「押す」の方言。

*11 「おりっと」は、漢字で書くと「下戸」。現在の伊興丁目と 2 丁目の七曲りを挟んだ地域。

*12 近所の諸橋元副分団長の話では、この火災で 7 件位が燃えたとの事で、鎮火後も町会の人たちがくすぶる火種が無いのか、夜通し交代で番をしたとの事だった。

一升くらいのお酒を出す風習

当時は火事が鎮火するとご苦労様の意味で、町会長や近所の人が一升くらいのお酒を出す風習がありました。*13 我々消防団も活動が一段落するとふるまいを受けていましたが、中には飲みすぎでくだをまいたり、喧嘩をする団員もいました。*14

*13 準公務員である消防団にとって、今では公務中の飲酒はありえない事である。しかし、おつかれ様の気持ちと、火事の厄を払ってほしいという町の皆さんの気持ちの伝わる、温かい昭和の風習といえる。

*14 田中米子氏(写真にある田中平三郎さんの奥さん)に聞いた話で、特に「ただちゃん」はよく飲んでいただけとの事だった。当時は町会などで炊き出しが出て、おにぎりやお酒をふるまっていたとの事だった。だから出動するとべろべろになって帰って来た事もあったと言っていた。嶋村秀雄氏自身も、活動の後、みんなと宝焼酎 2 本とイカの炙りを肴に飲みすぎ、帰れずに家族が探しに来たこともあったと言っていた。

ところで、当時の第 2 部の小屋の裏には丸太を 2 本立てて、その上に**半鐘が吊り下げられていました**。倒れない様に後ろに丸太をつっかえ棒の様にしよわせてありました。立っている 2 本の丸太もわずかに傾斜させて立っていたと思います。立っていたのは元々水路の様なところでした。

当時の第 3 部に立派な火の見櫓が経った頃には無くなっていたと思います。危ないので無くしたのかも知れません。この半鐘はどこに行ったか分かりません。

私も実際に何回か鳴らしたことがあります。鳴らすと耳が痛くなるくらいうるさかったので、あまりやりたくなかったです。当時衣服は退団者のおさがりだったと思いますが、帽子だけは新しく支給されたと思います。*15



*15 退団者のおさがりの件は、冒頭の写真を見ると解る。一番左に移っている杉本団員は体格が良いせいか、服の袖がツツルテンに見える。服と言えば、制服の上に付けているベルトは団旗を保持する際に使うベルトに似ている。また、小川団員と浅賀団員、嶋村団員はのちに分団長の職に着く事となる。話はそれるが、古性団員は足立区で著名な写真家である。特に人物写真が多いのは有名である。足立区で保管している昭和 30 年から 40 年に掛けての写真の撮影者には古性団員の名前がかなり多く見られる。写真機を持っている人が少なかった時代に、この様な素晴らしい写真が残っている所を見ると、古性団員自信が自前の写真機で撮影した物かもしれない。

行事はあまり覚えていません。出初め式はどこかの学校で行った覚えがあります。震災訓練か何かの訓練で綾瀬の近くまで集合した事もありました。当時は千住消防署も足立消防署も西新井消防署も一緒でしたから。国道4号線の東側にある平野グラウンドで2回ほど大会に参加しました。そのうちの大会で私たちは消防総監賞を受賞しました。その大会は手引きポンプによる水を出さないで演技だけ行う「カラ」操法の大会でした。当日は大川消防総監も列席されていました。この大会の当番は、我々第2部でした。参加選手は横山忠光さん、杉本昇さん、浅賀常男さん、小川清吉さん、嶋村秀雄と杉本初正さんでした。この杉本初正さんは第1部でしたが、古性定之助さんが都合で不参加となってしまう、隣の部から応援で参加してもらいました。当時は今と違って、5番員は無かったのだと思います。部が違うのに良く手伝ってくれたと思います。当日の服装はよく覚えていません。もしかしたらヘルメットも無かったかもしれません。作業着は着ていたと思います。はっきり覚えているのは白いズックを履いて行った事です。運動靴みたいな感じがしました。会場までは私のマツダ製オート3輪で、手引きポンプを搬送した事を覚えています。2代目の手引きポンプだったと思います。練習も盛んにやりました。場所は近所の十四中学校でした。指揮官は横山忠光さんで、私は機関員でした。練習が終わると横山忠光さんは近所のすす進(西竹の塚 2-3-18)で良く酒を飲ましてくれました。せっかかもらった消防総監賞ですが現在、この賞状は残念ながら行方不明になってしまいました。それともし、この大会に古性定之助さんが参加していたら、自前のカメラで沢山の記念写真を撮っていたと思います。



昭和39年の赤山街道と竹ノ塚堀

活動の中で他に思い出す事は、**防火用水の確保**でした。冬は用水路に水が無くなるので、土のう袋*16を2段くらい積んでせき止めて防火用水を確保しました。おそらく消防署から指示が出ていたものと思います。当時の活動は今より緻密では無かったと思います。火事現場に行くと署の手伝いでした。指揮系統も今に比べるとおおざっぱだったと思います。

本職(消防署員)がいるから、けがの無い様にと声を掛け合って活動していました。規律などで同僚から怒られたことは全くありませんでした。

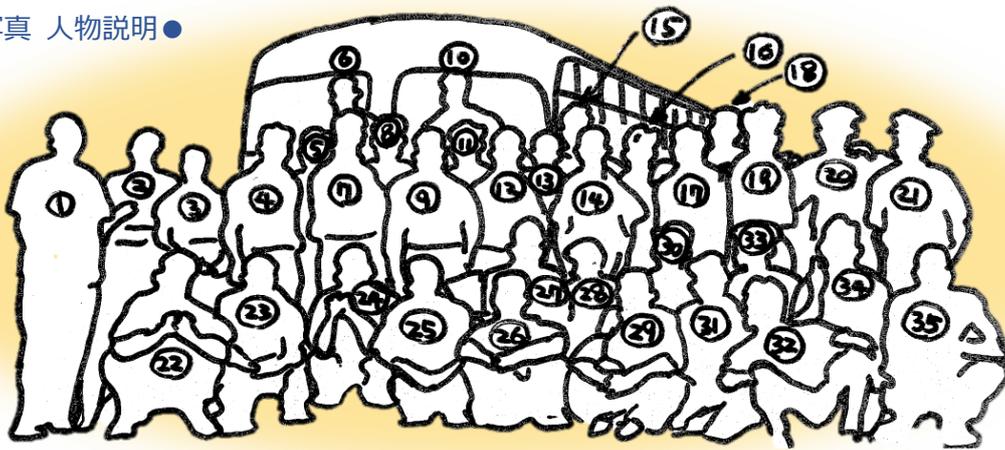
*16 小川初正氏の話だと、土のう袋では無く米袋(俵)だったとの事。また、嶋村秀雄氏は後日談話で、設置場所は小川清吉団員宅(伊興4-3-34)前の竹の塚堀で、袋(俵)を2段くらい積んでいたとの事だった。また、積み上げた時も撤去した時も、焼酎で打ち上げをやっていたとの事だった。

温かいムード入団した当時はみんな喜んでくれて、温かいムードだった記憶があります。団員で旅行に行ったり楽しかった思い出がたくさん残っています。*17



*17 団長は藤波辰五郎氏で、伊香保に行った時の写真との事。みんな、払い下げのズボンをはいている。嶋村秀雄氏は入団間もなかったせいかズボンをもらえなかったとの事。また、この写真では浅賀さんと嶋村さんだけがネクタイをしている。これは当時浅賀さんが「ネクタイをしていく」と伝えたからとの事。署員は東武バスを利用して別部隊で参加していたとの事。皆の笑顔が印象的な写真である。

昭和33年 第十一分団(現在の第五・第六分団)の伊香保旅行



- ① 古着屋つねさん (藤波つねはるさん)
- ② 古性ゆうじろうさん (古着屋のつねさんとは同級生。余談だが、彼らの同級生には三遊亭円楽もいたとの事)
- ③ ガイドさん
- ④ 分団長 藤波辰五郎さん
- ⑤ 杉本ちゅうぜんどん (旗持ち役だった。大会の欠員を埋めてくれた) (杉本初正さん)
- ⑥ 山崎こーちゃん/じんがのこーちゃん
- ⑦ 山崎しんじろうさん 現西新井消防団の初代団長
- ⑧ 浅賀つねおさん(のちに現西新井消防団の第六分団長を務める)
- ⑨ 田村けんちゃん (のちに分団長となる)
- ⑩ 北の根町会の小櫃さん
- ⑪ 横山しんちゃん
- ⑫ 鯨井たねちゃん
- ⑬ 渡辺とくさん
- ⑭ 横山ちかちゃん (後に3部に建った望楼の地主さん)
- ⑮ 山崎くにちゃん
- ⑯ 河内さん
- ⑰ 山崎たけおさん
- ⑱ 山崎しげまさん
- ⑲ 嶋村秀雄さん (のちに西新井消防団の第六分団長を務める)
- ⑳ 横山さん (のちに水元署の消防署員となる)

- ㉑ バス運転手さん (③ガイドさんとは夫婦だったと思うとの事。だからゆうじろうさんがガイドにべったりだったのが気になっていたのだろうか、なぜかそちらを向いて写っている)
- ㉒ 山崎よっちゃん (副分団長だった)
- ㉓ 横山ほっかいどうさん
- ㉔ さんのべどん しょーちゃん
- ㉕ 昼間さん (のちに伊興中央町会の町会長を歴任する。父親は消防団長だったとの事)
- ㉖ 横山忠光さん
- ㉗ 田中まさつぐさん (のちに伊興北根町会の町会長を務め、現西新井消防団の第六分団長も務める。3部の望楼設置に千勝さんと力を尽くす)
- ㉘ 幸野正松さん (区議会議員を一期務めた。この旅行は御招待だったとの事)
- ㉙ 小川清吉さん (のちに現西新井消防団の第六分団長も務める)
- ㉚ 櫻井さん
- ㉛ 小川まさみつさん
- ㉜ 嶋村銀蔵さん
- ㉝ 鯨井ひろしさん (のちに団本部副団長となる)
- ㉞ 小櫃きよしさん
- ㉟ 横山まさおさん

※名称は聞き取りによるもので、正確な氏名でない場合もあります。また、記載されている皆さんの事で当時の情報をお持ちの方は消防団広報までご連絡ください。

写真提供/嶋村秀雄 足立区役所

取材協力/嶋村秀雄 小川初正 田中米子 幸野功 諸橋誠一 一般社団法人日本消防ポンプ協会
 全国消防機器協会 東京消防庁消防防災資料センター (順不同)(敬称略)

次回は昭和初期の話か?
 ショートショートです。お楽しみに~

消防団よもやま話



消防団員募集中です!



西新井消防署管内に在住・在勤の
 18歳以上の健康な方

お問い合わせは...
 西新井消防署内 消防団事務局

03-3853-0119

